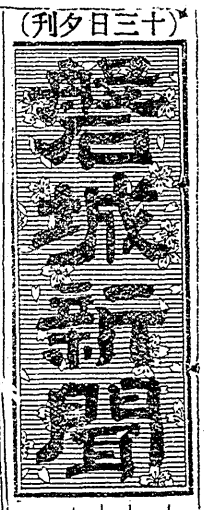
（十三日夕刊）



休刊　大祭　第一・第三日曜
定價　一ケ月六十錢　郵税二錢　郵税十五錢
廣告料　壹行六十錢　指定廿錢
著作兼發行人　藤沼鶴輔
發行所　福島縣平町四町十六番地　聲城新聞社
電話五大民平

山茶花第六號を讀みて

石田哲夫

山茶花編輯者兩氏に山茶編輯車といふ機關車は絶ゑず ボイラーの火を燃して居なければならない、その點 花第六號ヶ讀んだ感想を申上げ〻。

澎湃として全社會層を震動させてゐる、人類史上空前の一大轉換期運動の潮流に抗して勇敢にも封建イデオロギーを眞向に振りかざして傳流的短歌の法燈を死守してゐるさらに此の勇敢に発づ敬意を表する。

概觀するに第六號は山茶花創刊以來の最近の出來榮えである。わたしは申上げたい、先づ卷頭を飾るに磯目氏の月評が五號字八頁にまたがつて居りその他島田氏高久氏等々石城文壇の老大家が肩を並べて實に堂々たる陣容といふべきである、かつて山茶花はその本來の使命を完全に果しつゝあることは誠によろこばしい次第である。

餘人の歌はさて置き編輯者の共通點と特異點とについて申上げてみよう。

一、御兩人共に古典趣味的傾向にみなぎる、即ち溫泉をいでゆと讀ませたり、飯を食ふことをいのをすなどゝ申したり、大海をわたつみなどとひねくつたりするところにその現れが見られる、一言にして此を評するならば、鳥帽子姿の神官が、自動車でドライブするに酷似してゐはしまいか。

一、高木氏の作歌態度には卒直平明な點が見られるこれは從前の傾向と比べてアラ、ギ派の短歌に一歩接近せられたものと思はれる、その雅味のある點平明な感情など大いに進展のあとがうかがはれて嬉しいが少なからず牛的感傷に類する點それがないでもない、もつとスクールの大なる情景を歌つて欲しい。

一、佐川氏は、最近メキ〳〵傳派の跡を示して居られる。山茶花車を引張つて走らなければならない、と、必然的運命に置かれた佐川

平局の新設電話 十三日抽籤執行

架設費一個四百圓 當選僅か四個

平町地方の不景氣は未曾有と云はれる程深刻なもので平郵便局に於ける本年度電話架設申込の如きは例年なら四十口以上もあるのに今年は僅四口しかなく今十三日平局では抽籤を行ひ電話架設者を決定する事になつたが電話の架設申込が僅四件と云ふ事は平局開設以來始めてゞあり架設費が四百圓かゝるので此四口も減少するのではあるまいかと言はれて居り平町地方が如何に經濟的に行詰りの狀態であるかを物語つてゐるが、尙當籤者は左記四名である

水野ふゆ、利根川金三郎　田堀初次郎、對馬竹松

坑夫の娘 轉落溺死

二日目に發見

石城郡湯本町傾城居住坑夫宍戸榮次郎二女きよ(五)は十日午前十一時頃遊戯中入山炭礦排水路に轉落し破損したコンクリの間にはさまり溺死した死体は二日後同町室梅入山炭礦坑夫石本松平に依つて發見されたが紫色に變じ見る目も無慘な有樣であつたと

石城米檢所で 出張所增設

檢査員八名增員して 近く檢査實習

石城郡にはける穀物檢査所(警)は現在平支所と勿來駐在の二ケ所であつたが九月一日からいよ〳〵檢査法が改正されるので四倉驛前勿來驛前の二ケ所に出張所が設置される事になつた、檢査員は十五日配當されるが平三名、四倉二名、勿來三名で合計八名の增員を見るべく、これ等新檢査員に對しては十六日から毎日百點以上の米について檢査實習をなす

江名町 信用組合總會

借入限度變更

石城郡江名町信用組合では十日午後一時から同町字仲之作公會堂に於て臨時總會を開き半期事業成績を終り左の件を確定した

一般財界の不況に依り貯

起訴か不起訴か 錦村の殺人犯

十二日福岡檢事正來植 こゝ數日に決定

石城郡錦村大字田中助川あ福島地方裁判所福岡檢事正と共に再び植田署に捜査上あ打ち合せをなした起訴か不起訴かは數日中に決定を見る模樣である

ならぬ模樣で武田檢事は十日一先づ引揚げたが十二日

して植田署に留置中の曾孫にあたる春吉(二七)假名に對する物的證據は未だ充分で

(六一)の殺人事件被疑者、

四倉町で 人出利用

國產宣傳

石城郡四倉町は毎日一萬五六千人位の海水浴客が押寄せ賑はつてゐるので、同町青年團並に在郷軍人分會ではこの人出を利用して國產品愛用の大宣傳を十五日擧行する事になつた

平第一校 (七)

臨海學校通信

名殘りの夢を起床の合圖に破られて、床をけつてゞて、忽ち、小さい、黑い身体で疊を運ぶ。掛聲いさましく嬉びのうちに宿舍は整理される。

終つて体重の檢査だ。「オヤ、ニキログラムへつたぞ……」「ナンダ、たつた一キロ半か」「オヤッ。二キロ半もふへてゐるぞ……」みんなふへてゐる。

一時間半の後には朝飯の机にむかつてゐた。

カン〳〵と照る海に出れば、もう飛び込むさわぎ。

なんせ今日一日だもの、横泳ぎ、平泳ぎ、どうやら飛だけはのみ込めた樣だ。土用波が立つ、潮のひき方は速い、その中を勇ましく泳ぎまはる僕等。

陸に上るのもをしい氣がする。

正午、舍に歸れば今日の最後の食事の机。

なんとなく別れがをしい

そろ〳〵里心がついてきた、もう荷造りだ。

「先生！フンドシがない……」「オラのしやつは？」

「だれのだ！この赤帽？」

と雜音交る内にすづかり荷造りを終へ、いよ〳〵最後の海に出る。大きい西瓜、二ッ。海に浮かぶ、たちまち亂れる僕等の体列、西瓜うばひ。あつちにぽつかり、こつちにぽつかり。

「むぐれい」「わつちまへ」「こつちへよこせ！」「ど・ラックにつけ、僕等はステーションに急いだ。

「おれに半分！」「アッ陸へもつて逃げたぞ!!」……さわぎのうちに、二つの西瓜はとう〳〵皮だけをのこして、渚をたゞよはせてしまつた……」

五時、舍に歸り、名殘りの茶話會を今までの食堂で開く、もく〳〵と菓子を食ふ、話一つもない。

校長先生の臨海學校閉會のに言葉があり。着物はトラックにつけ、僕等はステ…忘れることは出來ない。

（終り）

平局の新設電話 十三日抽籤執行

架設費一個四百圓 當選僅か四個

平町地方の不景氣は未曾有と云はれる程深刻なもので平郵便局に於ける本年度電話架設申込の如きは例年なら四十口以上もあるのに今年は僅四口しかなく今十三日平局では抽籤を行ひ電話架設者を決定する事になつたが電話の架設申込が僅四件と云ふ事は平局開設以來始めてゞあり架設費が四百圓かゝるので此四口も減少するのではあるまいかと言はれて居り平町地方が如何に經濟的に行詰りの狀態であるかを物語つてゐるが、尙當籤者は左記四名である

水野ふゆ、利根川金三郎　田堀初次郎、對馬竹松

坑夫の娘 轉落溺死

二日目に發見

石城郡湯本町傾城居住坑夫宍戸榮次郎二女きよ(五)は十日午前十一時頃遊戯中入山炭礦排水路に轉落し破損したコンクリの間にはさまり溺死した死体は二日後同町室梅入山炭礦坑夫石本松平に依つて發見されたが紫色に變じ見る目も無慘な有樣であつたと

石城米檢所で 出張所增設

檢査員八名增員して 近く檢査實習

石城郡にはける穀物檢査所(警)は現在平支所と勿來駐在の二ケ所であつたが九月一日からいよ〳〵檢査法が改正されるので四倉驛前勿來驛前の二ケ所に出張所が設置される事になつた、檢査員は十五日配當されるが平三名、四倉二名、勿來三名で合計八名の增員を見るべく、これ等新檢査員に對しては十六日から毎日百點以上の米について檢査實習をなす

江名町 信用組合總會

借入限度變更

石城郡江名町信用組合では十日午後一時から同町字仲之作公會堂に於て臨時總會を開き半期事業成績を終り左の件を確定した

一般財界の不況に依り貯

起訴か不起訴か 錦村の殺人犯

十二日福岡檢事正來植 こゝ數日に決定

石城郡錦村大字田中助川あ福島地方裁判所福岡檢事正と共に再び植田署に捜査上あ打ち合せをなした起訴か不起訴かは數日中に決定を見る模樣である

ならぬ模樣で武田檢事は十日一先づ引揚げたが十二日

して植田署に留置中の曾孫にあたる春吉(二七)假名に對する物的證據は未だ充分で

(六一)の殺人事件被疑者、

四倉町で 人出利用

國產宣傳

石城郡四倉町は毎日一萬五六千人位の海水浴客が押寄せ賑はつてゐるので、同町青年團並に在郷軍人分會ではこの人出を利用して國產品愛用の大宣傳を十五日擧行する事になつた

平第一校 (七)

臨海學校通信

名殘りの夢を起床の合圖に破られて、床をけつてゞて、忽ち、小さい、黑い身体で疊を運ぶ。掛聲いさましく嬉びのうちに宿舍は整理される。

終つて体重の檢査だ。「オヤ、ニキログラムへつたぞ……」「ナンダ、たつた一キロ半か」「オヤッ。二キロ半もふへてゐるぞ……」みんなふへてゐる。

一時間半の後には朝飯の机にむかつてゐた。

カン〳〵と照る海に出れば、もう飛び込むさわぎ。

なんせ今日一日だもの、横泳ぎ、平泳ぎ、どうやら飛だけはのみ込めた樣だ。土用波が立つ、潮のひき方は速い、その中を勇ましく泳ぎまはる僕等。

陸に上るのもをしい氣がする。

正午、舍に歸れば今日の最後の食事の机。

なんとなく別れがをしい

そろ〳〵里心がついてきた、もう荷造りだ。

「先生！フンドシがない……」「オラのしやつは？」

「だれのだ！この赤帽？」

と雜音交る内にすづかり荷造りを終へ、いよ〳〵最後の海に出る。大きい西瓜、二ッ。海に浮かぶ、たちまち亂れる僕等の体列、西瓜うばひ。あつちにぽつかり、こつちにぽつかり。

「むぐれい」「わつちまへ」「こつちへよこせ！」「ど・ラックにつけ、僕等はステーションに急いだ。

「おれに半分！」「アッ陸へもつて逃げたぞ!!」……さわぎのうちに、二つの西瓜はとう〳〵皮だけをのこして、渚をたゞよはせてしまつた……」

五時、舍に歸り、名殘りの茶話會を今までの食堂で開く、もく〳〵と菓子を食ふ、話一つもない。

校長先生の臨海學校閉會のに言葉があり。着物はトラックにつけ、僕等はステ…忘れることは出來ない。

（終り）

涼味を誘ふ 夏の夜の虫聲 (一)

……その飼ひ方……

むし暑い夜、可愛らしい虫の聲を聞く時、何ともいはれぬ涼味を誘ふものである、これらの虫は昔からして十日位で死んでしまへば〳〵詩歌

俳句の題材にされてゐるが虫を籠の中に入れてその鳴き聲を愛でるやうになつた、鈴虫でも松虫でも野生のものは八月頃たならなければ出ないもので、六月頃から賣りに來るのは人工で孵化されたものであるやはり野生のものは丈夫だがこの人工孵化によつて作られた虫に一般に體質虛弱で、虫屋から買つて來ては大抵早いのは二三日、長くて十日位で死んでしまふ。

飼ひ方の注意としては、虫は水を好むからといつてよく水をかけてやつたり草に水にひたしてそれを虫籠を入れてやつたりする人があるが人工孵化のものは乾燥したところで育てたものであるから

濕氣は大の禁物で水などをかけるとたちまち死んでしまふ、朝夕キウリを薄く切つて入れてやるだけで充分である、それから日中陽のあたる場所にたくことも避くべきことで、日蔭の涼しいところに吊してよくたくことである、また虫をよく鳴かせやうとして雄雌一匹づゝ一つ籠に入れてたくと雄の鳴き聲は雌に對する愛慕の呼び聲であるから雌を同じ籠の中に入れてたくと雄は滿足してしまつてあまり鳴かなくなる、そこでよく鳴かせやうと思つたら雄雌を別々の籠に入れ少し離しておく樣にしなければならない

鈴虫　秋の虫の中で最も人に愛せられるもので、ころ〳〵、リーン〳〵と鳴く聲はちやど銀鈴を振るつゞけである、これらの虫は昔からして十日位で死んでしまふ。

俳句の題材にされてゐるが虫を籠の中に入れてその鳴き聲を愛でるやうになつた、鈴虫でも松虫でも野生のものは八月頃たならなければ出ないもので、六月頃から賣りに來るのは人工で孵化されたものであるやはり野生のものは丈夫だがこの人工孵化によつて

涼味を誘ふ 夏の夜の虫聲 (一)

……その飼ひ方……

むし暑い夜、可愛らしい虫の聲を聞く時、何ともいはれぬ涼味を誘ふものである、これらの虫は昔からして十日位で死んでしまへば〳〵詩歌

俳句の題材にされてゐるが虫を籠の中に入れてその鳴き聲を愛でるやうになつた、鈴虫でも松虫でも野生のものは八月頃たならなければ出ないもので、六月頃から賣りに來るのは人工で孵化されたものであるやはり野生のものは丈夫だがこの人工孵化によつて作られた虫に一般に體質虛弱で、虫屋から買つて來ては大抵早いのは二三日、長くて十日位で死んでしまふ。

飼ひ方の注意としては、虫は水を好むからといつてよく水をかけてやつたり草に水にひたしてそれを虫籠を入れてやつたりする人があるが人工孵化のものは乾燥したところで育てたものであるから

濕氣は大の禁物で水などをかけるとたちまち死んでしまふ、朝夕キウリを薄く切つて入れてやるだけで充分である、それから日中陽のあたる場所にたくことも避くべきことで、日蔭の涼しいところに吊してよくたくことである、また虫をよく鳴かせやうとして雄雌一匹づゝ一つ籠に入れてたくと雄の鳴き聲は雌に對する愛慕の呼び聲であるから雌を同じ籠の中に入れてたくと雄は滿足してしまつてあまり鳴かなくなる、そこでよく鳴かせやうと思つたら雄雌を別々の籠に入れ少し離しておく樣にしなければならない

鈴虫　秋の虫の中で最も人に愛せられるもので、ころ〳〵、リーン〳〵と鳴く聲はちやど銀鈴を振るつゞけである、これらの虫は昔からして十日位で死んでしまふ。

俳句の題材にされてゐるが虫を籠の中に入れてその鳴き聲を愛でるやうになつた、鈴虫でも松虫でも野生のものは八月頃たならなければ出ないもので、六月頃から賣りに來るのは人工で孵化されたものであるやはり野生のものは丈夫だがこの人工孵化によつて

平町民体育大會 廿一日と決定

各區が目下猛練習 榮冠は何町か

平町民体育大會は廿一日と決定し今餘す處僅か一週間となつたが昨年の優勝區である田町紺屋町青年團は勿論其他各青年團では必勝を期し早きは四月頃からたそく共六月からは懸命の猛練習を續けて居り爾來斯大會に參加しなかつた一町目二町目三町目各青年團でも今年は出馬する筈で毎夜七時頃から十時頃まで各青年團ではトラック・フエルドに大汗を流して居るので來る廿一日には夫接戰を演ずるだらうと見られてゐる

平水道 斷水せず

町當局安吐

殘暑はなほ酷しいけれど朝夕はめつきり秋風立つて水道の使用量も七月中旬よりは幾分か減じたので先づどうやら斷水はせずとも濟むだらうと平町當局もホッと安堵の體である

三井坑の解雇者 八百名下山し

殘留者は立退く先なく 立籠る悲哀さ

石城郡磐崎村三井炭礦千餘名の解雇者中十一日までに下山したもの八百名に達し殘留してゐる坑夫達は歸郷しようとしても家の無い者もあり又立退先がなく余儀なく立籠つて居る者が大部分で會社では本月中に全部整理解散する方針であるが多少居殘りが出來るらしい

久之濱で 幼兒溺死

双葉郡久之濱町字金澤三人

不動澤炭礦

二十二名解雇

石城郡内郷村大字白水不動澤炭礦は百餘名の勞働者を有してをるが十二日坑夫廿二名を解雇した解雇手當は二週間分であるその理由は單なる事業不振と過般の坑内出水に依る爲めらしい

◇藝者だつて、借金を踏み倒してズラかつたレコードホールダーのランナーがあり砲彈の樣にお客をスッポかした、フイールドのチャンもあり◇一つ藝者チームをつくつてお客チームに挑戰するなどは現代的だわねと會議が始まつた、アタイ稽古木棒より揚げザルで球を掬ふ方が好いね「アラ嫌だ、野球と庭球と云ふのよ」◇小さい時鞠をついたことがあるから庭球なら自信があるわ「それにお客は、同時もた前だちはチイキツ(低級)だつていふから、其方が好いよ」とテニスチームを組織することに一決したとのことだ、今に自動車のお尻のようなのをユニフオームに包んでコートに現れたら勇ましくも馬鹿らしき事であらう◇そして負けても勝つても玉代だけは貰つて好いわねとは國うゞし過ぎるせ。

平町人事

△出生

平町長橋町二十豆腐屋湯本町天王崎四九大和田芳吉五男芳雄

八日間、僕等を黑くし、丈夫にしてくれた臨海學校も終つた。

宿舍よ、海よ、四倉よ、

「サヨウナラ」

滿員の汽車は平にむかふ。父さま、姉さん、諸先生等にお迎ひをうけ、それ〳〵なつかしの家路につい

先生方の父兄にまさるお骨折、樂しかつた臨海學校にやつて下さつた親の恩……忘れることは出來ない。

（終り）

平町民体育大會 廿一日と決定

各區が目下猛練習 榮冠は何町か

平町民体育大會は廿一日と決定し今餘す處僅か一週間となつたが昨年の優勝區である田町紺屋町青年團は勿論其他各青年團では必勝を期し早きは四月頃からたそく共六月からは懸命の猛練習を續けて居り爾來斯大會に參加しなかつた一町目二町目三町目各青年團でも今年は出馬する筈で毎夜七時頃から十時頃まで各青年團ではトラック・フエルドに大汗を流して居るので來る廿一日には夫接戰を演ずるだらうと見られてゐる

平水道 斷水せず

町當局安吐

殘暑はなほ酷しいけれど朝夕はめつきり秋風立つて水道の使用量も七月中旬よりは幾分か減じたので先づどうやら斷水はせずとも濟むだらうと平町當局もホッと安堵の體である

三井坑の解雇者 八百名下山し

殘留者は立退く先なく 立籠る悲哀さ

石城郡磐崎村三井炭礦千餘名の解雇者中十一日までに下山したもの八百名に達し殘留してゐる坑夫達は歸郷しようとしても家の無い者もあり又立退先がなく余儀なく立籠つて居る者が大部分で會社では本月中に全部整理解散する方針であるが多少居殘りが出來るらしい

久之濱で 幼兒溺死

双葉郡久之濱町字金澤三人

不動澤炭礦

二十二名解雇

石城郡内郷村大字白水不動澤炭礦は百餘名の勞働者を有してをるが十二日坑夫廿二名を解雇した解雇手當は二週間分であるその理由は單なる事業不振と過般の坑内出水に依る爲めらしい

◇藝者だつて、借金を踏み倒してズラかつたレコードホールダーのランナーがあり砲彈の樣にお客をスッポかした、フイールドのチャンもあり◇一つ藝者チームをつくつてお客チームに挑戰するなどは現代的だわねと會議が始まつた、アタイ稽古木棒より揚げザルで球を掬ふ方が好いね「アラ嫌だ、野球と庭球と云ふのよ」◇小さい時鞠をついたことがあるから庭球なら自信があるわ「それにお客は、同時もた前だちはチイキツ(低級)だつていふから、其方が好いよ」とテニスチームを組織することに一決したとのことだ、今に自動車のお尻のようなのをユニフオームに包んでコートに現れたら勇ましくも馬鹿らしき事であらう◇そして負けても勝つても玉代だけは貰つて好いわねとは國うゞし過ぎるせ。

平町人事

△出生

平町長橋町二十豆腐屋湯本町天王崎四九大和田芳吉五男芳雄

前代未聞珍藝

夕夏の御樂しみ
娯樂司是非涼乍御來觀願升
生藩人之演藝大會
當ル八月十三日
午後五時花火合圖開場
入場料 大人 二十錢 小人 十錢
聚樂館

御中元贈答品には
贈るに便利で御重寶な
三井の商品券
三井呉服店

夜診
胃腸
内科 十二指腸潰瘍 虫病
專門部 内科
膀胱
淋病 婦人病 皮膚病
專門部 外科
松村胃腸病科醫院
(平南町電話一〇七番)
療間

銘酒 清世界
各炭鑛御用達 小野晋平
電話六番
石城小名濱港
清水屋

タクシーの御用命は!!!
何卒 昭和タクシーへ
(料金低廉)
平駅前
電三四三
澤正路